

図1 方法

- ・紀南家保管内の4農家(A～D農家)に対し、
野草の刈り取り～給与の作業内容を聞き取り調査
- ・粗飼料として1頭あたりイタリアン乾草(50円/kg)を
7kg/日給与すると想定した場合と比較
- ・刈り取り場所の現地調査および植生調査



図2 A農家(概要)


飼養頭数	母牛27頭、子牛13頭
野草の刈り取り場所	河川敷、耕作放棄地、その他約20ha  <p>河川敷</p>  <p>原動機付草刈機(手押し)</p>
刈り取り期間、時間	春～秋、週1回、1回2時間 (冬季は貯蔵した乾燥野草を給与)
収量	1回の草刈りで1400kg
野草給与量	8kg/頭/日
植生	イネ科野草、マメ科野草、有毒植物なし

図3 A農家(分析)

- ・イタリアン乾草7kg × 50円 × 365日 × 母牛27頭
= ¥3,449,259相当の支出削減

- ・重機を利用しやすい広い草刈り場で、短時間に大量に刈る
- ・牛舎内に貯蔵スペースを設け、回収の時間を節約する
- ・繰り返し刈り取りを行うことで植生や収量を安定させる



図4 B農家(分析)

・イタリアン乾草(7kg-4kg) × 50円 × 183日 × 母牛28頭
= ¥768,600相当の支出削減

- ・農場周辺の採草地なので、運搬時間が短い
- ・堆肥を採草地に還元出来る
- ・時間あたりの収量が少ない



購入乾草への切り替えや規模縮小などを検討中

図5 C農家(分析)

・イタリアン乾草7kg × 50円 × 274日 × 母牛36頭
= ¥3,452,400相当の支出削減

- ・小さな刈り取り場所が点在しており、収量や植生が安定しておらず、効率も悪い
- ・昨年度の取り組みによる有毒植物に対する意識向上の成果が伺われた
- ・春頃より受胎率低下、不受胎牛に削瘦が散見
 - 粗飼料として野草5kg/頭/日 + 自家製配合飼料
 - 栄養不足が疑われたため、指導を実施

図6 C農家(指導)

飼料計算を実施。全ステージでTDN、CP不足

→現状では野草の収量を上げるのは難しいため
イタリアンストローを購入する。

自家製配合飼料の組成・給与量調整も実施。

		調整前		調整後
維持期	TDN充足率	80%	→	106%
	CP充足率	103%	→	140%
妊娠末期	TDN充足率	89%	→	102%
	CP充足率	93%	→	126%
泌乳期	TDN充足率	94%	→	100%
	CP充足率	96%	→	104%

→削瘦は徐々に改善。受胎率も向上。

図7 D農家(概要)

飼養頭数	母牛3頭、子牛2頭
野草の刈り取り場所	放牧場(耕作放棄地) 5ha
刈り取り期間、時間	4月～11月、月10回、1回2時間 (冬季は購入イタリアン乾草を給与)
収量	1回の草刈りで100kg
野草給与量	舎飼い飼料として飽食
植生	イネ科、マメ科野草、有毒植物なし (昨年度、キョウチクトウ中毒疑い例あり)



図8 D農家(分析)

・イタリアン乾草7kg × 50円 × 243日 × 母牛3頭
＝¥255,150相当の支出削減

- ・本業は建設業。放牧を活用し作業時間短縮。
- ・畦や原野から得た野草を牛に給与し、牛耕で田畑を耕し堆肥を還元する農村型循環社会の復活・集落活性化を目指す。